

大学改革シンポジウム2021「教職協働による大学改革 -香川大学、改革するってよ-」を開催

7月3日、大学改革シンポジウム2021「教職協働による大学改革～香川大学、改革するってよ～」を開催。大学の役割や存在意義がこれまでより幅広く議論されている中で、大学改革の機運が高まっている今、大学運営の鍵となる「教職協働」というキーワードを掲げ、その第一人者である芝浦工業大学の村上前学長らをお迎えして、大学のあるべき姿について考えました。

第一部では、「教職協働が大学の明るい未来をつくる」という題目で、村上氏から講演いただくとともに、村上氏と算学長による対談をおこないました。大学が更なる成長をしていくためにも大学改革は必要であり、「時

代に応じた学生のための大学運営（教育、研究）ができていないか」という視点から考えれば、教職協働による大学改革に終わりは無い等、大学を牽引する立場からの視座を知る貴重な機会となりました。

第二部では、「教職協働による大学改革～教職協働って美味しいの？～」というテーマで、パネルディスカッションをおこないました。芝浦工業大学職員の吉川氏、小倉氏、香川大学からは、小方教育学部教授、職員の野口氏、古島氏の5名のパネリストが登場し、八重樫創造工学部教授がファシリテーターを務めました。芝浦工業大学の取組みの紹介も交えつつ、意見交換を行う中で、多くの成功



教職協働による運営メンバー

体験を教員、職員、学生が共有して大学を成長させていくことの重要性や、「何のためにここ(大学)に居るのか」と自問自答できる大学構成員像を改めて認識することができました。また、「対外試合(外を知ること)」「明るい未来志向」というキーワードも印象深く、充実したパネルディスカッションとなりました。

学生応援弁当

6月24日、幸町キャンパスで経済的に困窮している学生支援として、学生応援弁当がワンコイン(100円)で提供されました。5月下旬に実施したアルバイトに関するアンケート結果によると、食費を削らざるを得ない声が多く聞かれたことから、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」を活用するとともに香川大学校友会の支援により実施されました。当日は、販売開始前から50人に及ぶ長蛇の列

となり予定していた600食は1時間足らずで売り切れ大盛況となりました。購入した学生からは、「楽しみにこの日を待っていた」「今後も是非続けてほしい」等の好意的な意見が多く聞かれました。

医学部、創造工学部、農学部各キャンパスにおいては6月30日に第一回目が実施され、今後、各キャンパスにおいて7月・10月・11月・12月(各月2回)合計9回、実施される予定です。



グローバル・カフェ「ハワイイベント」を開催

7月7日、第2弾Cultural Eventの「ハワイイベント」をオンライン開催。日本の文化がハワイの衣食住に与えた影響を理解し、日本とハワイの深い繋がりについて学びました。なぜハワイには日系人が多いのか、アロハシャツと着物の関係性、伝統的なハワイ料理とされているロコモコが実は日本の三色丼から発想を得たものであること、盆踊りがボンダンスとしてハワイに根付いていることなどが紹

介されました。ハワイ語やフラダンスの手の動きに関するクイズを交えながら楽しみ、イベントの最後には、クイズで高得点を獲得した上位4名に景品が贈られました。ハワイは観光地として有名ですが、イベントを通して、ハワイへの見方が変わったと思います。今後も他国の文化について、さまざまな視点から理解を深めるきっかけになるイベントの開催を予定しています。



ハワイアンフード「ロコモコ」



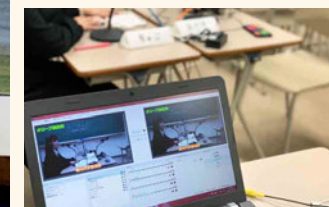
高松市主催ダンスコンテストにスタッフ参加



オンライン大学祭 2020 外の中継カメラ操作



オンライン大学祭 2020 講室内移動カメラ操作



ツイキャス配信中 カメラ越し



よさこい祭り2019in香川で司会



うらじゃ 2019in 岡山で司会



大学祭2019 生配信の中継



新歓祭2021 控え

香川大学 放送部 (KBC)

香川大学放送部(KBC)は、放送関係に興味がある19人の部員で活動しています。生配信や司会を通し演者側としての経験を積んだり、逆にカメラマンやスイッチャーの仕事を通して演者側だけでは成り立たない放送の奥深さや、演者とのコミュニケーションのとり方を学んだりしています。学外の方に呼んでいただき、イベントスタッフとして活動することもあります。大学内では、できない経験をさせていただくとともに世間の常識も勉強させていただいています。現在コロナ禍で対人イベントが減少していますが、私たちにSNSで発信を行っていますが、直接、人とあつて行うイベントの有難

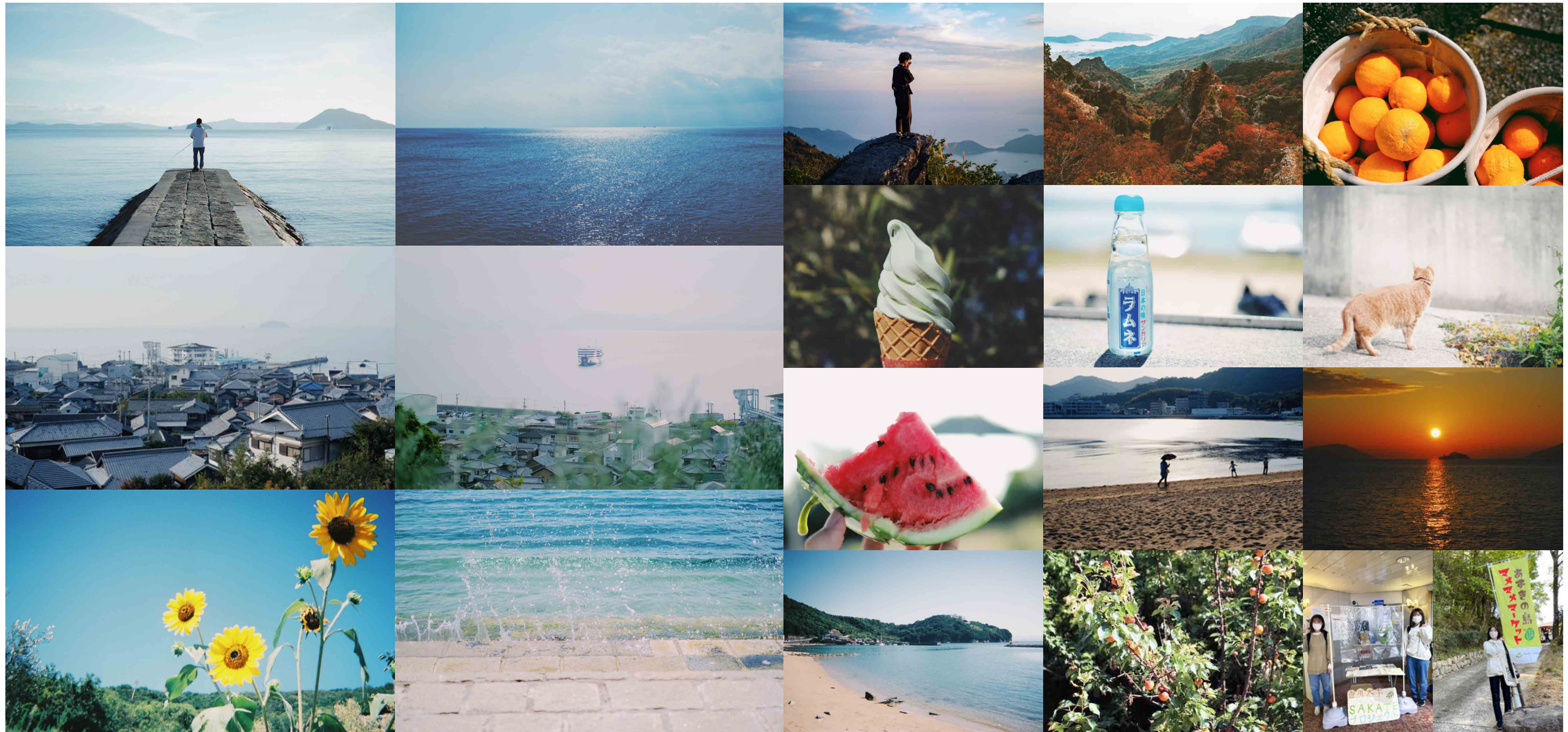
さを身にしみて感じる毎日です。また毎年開催される「NHK全国大学放送コンテスト」に向けて、ラジオ作品の制作にも力を入れています。学年を問わず協力し仲間意識が芽生える大切な機会になっています。真夏にエアコンの付かない講堂で録音している時間は、役に入り込んでいることもあって不思議な時間です。非現実的事項が無音環境であることも相まって、暑さも忘れてしまいます。放送部では自分たちが、やりたい!楽しい!と思うことに懸命に取り組むことができます。これからも、誰か一人でも、その人の力になれることを願い活動を続けていきます。

活動場所・部室、教育学部棟教室
活動時間・毎週木曜日
部員数・19人
Twitter・@kbckhk
Instagram・@kbc_kagawa.u
連絡先・kbckhk@yahoo.co.jp
TwitterDM



サークル歴2年
農学部3年
本名真己
Honmyo Mako





徳本杏 / 今年、活動を初めてから一番の大豊作に

フェリー内での観光案内

地域の行事に参加

小豆島プロジェクト 通称「豆P」は、2011年にスタートしました。かつての歴史を垣間見たり、優しい人々に会うことができる小豆島坂手地区の魅力を少しでも多くの人に知ってもらいたい!という学生達の思いによって結成。地域の清掃ボランティアや、地域行事への参加、海の家運営や、かつて盛んに栽培されていた「徳本杏」の再生事業など、さまざまな活動を行ってきました。現在は豆Pの広報誌「白鳥だより」の発行、小豆島と神戸を結ぶジャンボフェリー内での観光案内、地域行事への参加など従来の活動を継続するとともに新たな活動も企画しています。

「白鳥だより」には、地域の皆さまに豆Pのことを知っていただくことを目的に、豆Pの活動内容や参加行事、メンバー紹介などを掲載。町を歩いて「白鳥だより」を配布する際、感謝の言葉を頂いたり、小豆島の現状などを尋ねたりして、地域の方々と交流することが活動の励みになっています。新型コロナウイルス感染が拡大し、地域の皆さまと接する機会が少なくなっている今、「白鳥だより」が地域と私たちを繋ぐ架け橋になっています。小豆島と島外の人々を繋ぐ役割を担っているのが、フェリー内での観光案内やSNSでの

情報発信です。私たちの活動が観光客の増加につながり、SNSを活用して小豆島の特産品や伝統などを伝え継承していくことが、豆Pの活動に価値を生み出すと考えています。新型コロナウイルスの影響で小豆島を訪れる観光客が減少し、地域の方と観光客とのコミュニケーションが少なくなっていると活動を通して感じました。そこで私たちに何かできることはないかと思い、「ベンチでつながる小豆島」を新たに企画しました。ベンチを一つの居場所、フォトスポットとして提供し、地域の方や観光客の方、そして私たち学生が

繋がり、より良いコミュニケーションの機会を創出することで、観光振興や地域振興にも結び付けていこうというものです。これまで小豆島の方たちと関わり、住みやすいまちづくりに貢献したいという、一つの目標に向かってメンバー全員が責任感を持ち各々の役割をやり遂げました。時には、企画進行が行き詰まったこともあります。そういう時、プロジェクトメンバーや地域の方々に力を貸していただきました。そのたびに繋がりが強まり、信頼が高まり、豆P全体の成長につながっています。

私は地域振興に関わる仕事に就くことを目指して、全国の事例をはじめとした、まちづくりに関わるさまざまなことを学んでいます。私はまちづくりというものを、本やインターネットなどで調べたことしか知らず、実際に地域に出てどういった活動を行うのかを体験したいと思い、このプロジェクトへ入ることを決めました。今までの活動を通して、課題や問題点を改善していくための考える力や、気づく力がついたと感じています。一時的ではなく、長い目で見て効果を感じられるような問題改善を目指し、これからも日々の活動に励んでいきます。 経済学部2年 岩丸和生



新型コロナウイルスの影響で、白鳥だよりを、一軒一軒ポストに投函

